

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500660		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花 豊平館		
所在地	札幌市豊平区豊平3条8丁目1番18号		
自己評価作成日	平成25年9月13日	評価結果市町村受理日	平成25年10月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0190500660-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・防災や災害時の設備で、防火扉・救助袋・階段滑り台・発電機・ジェットヒーターと災害時への設備が充実している事と年4回避難訓練実施、災害に対しての取り組みに力を入れている。
- ・ご家族様に日々の様子が分かるように、毎月写真付きの新聞を作成し郵送している。
- ・毎月外出行事も含めてイベント計画している事と夏祭り・敬老会・クリスマス会には、地域やご家族様も参加できる行事を行っている。また、地域資源を活用し、カラオケやフラダンスなどのボランティア受け入れ、入居者様が楽しめるように工夫している。
- ・駐車場屋上スペースを利用した屋上庭園では、家庭菜園を入居者様とご家族様と一緒にいき、楽しめるように取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 9 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市内で多数のグループホームを運営している当法人が、これまでの経験とノウハウを活かして2年前に開設しました。「菜の花豊平館」は、1ユニット4箇所の広いトイレ、全身シャワー設備など介助しやすい浴室、多目的に使用可能な交流スペース、利用者や家族から大好評の屋上庭園等と利用者にとって安全で暮らしやすく、職員には働きやすいモデル的存在のホームです。特に、2階の屋上庭園以外に避難に便利な2カ所のベランダ、停電時用の発電機設備、災害用備蓄品の整備、地域との連絡網など種々の設備で災害対策に万全を期しているため家族にとっても安心感の有るホームです。運営法人は人材育成を重視して各種研修を実施しているため、職員も理念に基づいたケアサービスの重要性を理解して日常業務に専念しており、職員の明るさ、笑顔、優しさを家族が評価しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り前に理念を唱和している。また、管理者会議・リーダー会議・社内研修会の初めにも理念の唱和を行っている。 介護日誌にケア理念から1日の目標理念を定め、1日の終わりに評価して理念の共有に努めている。	ホームは、高齢者の暮らしを支え、地域との連携を目指す法人理念と職員のあるべき姿を示すケア理念を有しています。職員は、毎朝及び会議での唱和と研修会で理念を確認し、実践に努めています。	理念は、ホーム運営上の根幹となる重要な事項です。職員は、唱和等を通して理念を把握していますが、開設後約2年間と短期間なので今後も理念を自己の知的資産としてより深く理解し、ケアサービスに活かすことを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の街路樹に入居者様とスタッフが参加し、花植えを婦人会と一緒にすることが出来た。町内会の子供みこしでホームの前を通ってくれる町内会からの配慮もあり、見学する事が出来ました。夏祭りには、地域の子供達や住民の方も多数参加して下さっています。	ホーム周辺はマンションが多く、町内会活動が困難な地域ですが、花壇整備など町内会事業への協力、多数の住民や子供たちのホーム主催夏祭りへの参加などホーム側からの積極的働きかけによって地域との交流が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が主催し、地域の方向けに認知症サポーター養成講座を地域包括支援センターによる講座を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行事や日常生活の報告を行っている。庭園の活用について、栽培する野菜の種類について意見を聞いて取り入れています。	会議は、町内会会長、民生委員、街づくりセンターの市職員、家族等と多彩なメンバーで構成され、定期的に開催しています。会議による要望等は、オリジナル体操や同好会による歌謡ショーの実現などホーム運営に活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	家族から質問があり、介護保険以外での有償ボランティアをグループホームで使用できるかについて、市町村担当者に確認している。	管理者は、行政担当者との電話連絡や直接担当者を訪問しながら相談や情報交換をしています。さらに、運営推進会議や市の管理者会議で行政担当者と接触の機会も多くこれらを通して市との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス・社内研修にて、身体拘束の排除について勉強会を行っている。玄関は防犯の為、夜間のみ施錠し、日中は施錠していない。ベットの柵は、ご本人様が通れるスペース確保しており、4点柵を使用しない取り組みを行っている。	運営法人は人材育成を重視しており、頻繁に開催している全体研修会は身体拘束防止関連の内容を含んでいます。職員は、上記以外に外部研修やホーム内勉強会で身体拘束のないケアの必要性を理解し、実践しています。玄関の施錠は夜間帯のみで、ユニット間の施錠は有りません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス・社内研修・社外研修にて、虐待防止について勉強会を行っている。身体拘束・虐待防止の自己点検表の中から一月の目標を決め、カンファレンス時に話し合う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者会議研修会で、成年後見人制度について研修会に参加した。職員間で共有するためカンファレンスで勉強会を開き、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定・重要事項説明書を用いて、契約時に本社から十分な説明を行った上で契約を結んでいる。また、ご家族様の疑問点など、その都度、十分な説明を行い対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で出た意見や要望を取り入れ、食事のメニューをフロアに張り出す事やフロアに日常の写真を張り出すことなど行っている。ご家族様の来館時に意見・要望を聞けるようコミュニケーションを図っている。	ホームへの家族来訪回数が多く、その都度、職員は話しやすい雰囲気づくりに努めながら利用者の様子を伝えています。家族からの要望等は、随時、内部で話し合いながらホーム運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンス・リーダー会議に参加し、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。庭園の苗の購入や介護の消臭剤など職員の意見を取り入れ反映させている。	毎月開催の定例会議には代表者も出席して職員の意見や提案を聞いています。また、日常業務の中でも管理者やリーダーは、職員と率直に話し合いながら利用者へのサービス向上と働きやすい職場づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の努力・実績を考慮し、また管理者の意見を取り入れ、準社員や正社員の雇用に努めている。4月に全職員の昇給も行い給料水準を上げている。やりがいを持てるように全国への研修へ参加し、向上心が持てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・事業所内の研修会・外部の研修への参加を積極的に促す事や外部の研修に参加できるサポートシステムが確立し働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会・外部研修に参加し、グループワークの中で互いの情報交換を行っている。外部からの実習生を受け入れる事で同業者との意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談やホームの見学時を重ねて頂くことで、不安や要望に耳を傾ける機会としている。入居前に基本情報シートを家族に記入して頂き、生活歴などを事前に知る事で安心して関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談やホームの見学時を重ねて頂くことで、不安や要望に耳を傾ける機会としている。家族の要望を介護計画に活かすことで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様のその時の身体状況や精神状況など話を聞いて、必要な支援を見極め、往診・訪問歯科・訪問マッサージ、他のサービスの利用にもニーズに合わせて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いを通じて、食器洗い・食器拭き・配膳・下膳・食事作りの手伝い等を出来る事を一緒に行うことで暮らしを共にする関係を築いている。また、庭園で野菜を共に育てることも関係を築く一環としている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院への通院・庭園の野菜作り・お誕生日会の参加・夏祭りの参加やバザー商品のご協力をご家族様も協力の上行っていることで、共に支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様の希望を考慮した上で、馴染みの人の面会を受け入れている。ゆっくりと談話できる場所や会話が出来る環境をつくることを支援している。毎年、ご家族様に年賀状を送れるように支援している。	職員は、家族や知人への連絡や年賀状づくりなどを手伝い、ホーム来訪者には歓迎して、気兼ねなくゆっくり過ごせる様配慮しています。遠出や外泊などの外出希望には家族へ連絡しながらできるだけ希望に沿える様支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が一緒に過ごしやすいように、テレビ前にソファを設置、くつろぎやすい空間を作っている。散歩・談話・レクリエーションなどを通じて、入居者様同士に関わりあう機会を作り、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年から退去者がいないので取り組みは行っていない。必要に応じて本人や家族の相談に応じる事や情報提供などの支援に努めたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報をもとにモニタリング・アセスメント・サービス担当者会議を通じ、入居者様の希望や意向を職員間で検討している。また、ご本人様の意向を介護計画に反映している。	利用者の思いや意向把握が困難な時は、日々の行動や会話と家族からの情報を参考にし、職員間で相談もしています。把握困難な時も本人が嫌がることを避けて本人本位のケアサービスに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に基本情報シートを記入してもらい、生活歴などの把握に努めている。慣れ親しんだ家具や生活用品を使っていただくことで、馴染みの暮らし方が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーション・体操・台所でのお手伝いなど、日々の様子の中で身体状況の把握に努めている。また、常に入居者様とコミュニケーションを図り、それらの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を介護計画作成前に確認し、介護記録に活かしている。毎月のサービス担当者会議・モニタリングを通じて現状に即した介護計画の作成に努めている。	職員は、利用者一人ひとりの様子を気付きシートに記録して全職員の共有とし、家族や医療機関との相談、モニタリングや毎月の担当者会議等で協議しながら3ヵ月毎に適切な内容へのケアプラン見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きを付箋に張り出し、アセスメントに反映、毎月のカンファレンスで情報を共有する事で介護計画に活かしている。また、朝・夕2回の申し送り時に日々の様子の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに合わせて、散歩同行・買い物同行・野菜やお花のお世話など、柔軟な支援で対応しサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを活用し、カラオケコンサートやフラダンスをホームで開催しています。暮らしを楽しめるような支援としてつなげています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	訪問診療・病院については、ご家族様の希望に合わせて対応しています。互いに情報提供する事や些細な事でも相談する事で適切な医療を受けられるように支援しています。	月2回、24時間対応の協力医療機関による訪問診療と要望に応じて歯科の訪問診療があります。家族や利用者の希望による受診も自由で、その際は家族にお願いしていますが職員が付き添うこともあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回本社の看護師が訪問、バイタルチェックをはじめ日々の状態変化を聞き取りしている。訪問診療と連携を図りながら情報を共有し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護職員が頻繁な面会に行き、入居者様が安心してできるようにしている。ホームでの生活状況を医療機関と共有し適切な治療を受けられるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化について説明し、ご本人様やご家族様の意向を「私が望む医療・望まない医療」に記入し書面に残している。また、その時の状況で、意向の変更については、その都度対応している。また、他館での看取り情報を共有し、今後支援が出来る取り組みとしている。	入居時に家族へ重度化の指針を説明して同意書を頂いています。利用者の状況に応じて意向確認書を記入して頂きながら事後の支援をしています。関連の研修も実施しており、今後、法人内グループホームでの実務研修も計画しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を実施し、急変時への対応を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した避難訓練を行っている。自動火災通報装置に町内会役員の電話番号を登録し地域との協力体制を築いている。発電機・ジェットヒーター・非常食・入居者様の薬（3日分）災害時持ち出せるように常に備えている。	災害対策は、法人全体の重要事項として取り組んでおり、年4回の避難訓練、外部へ出やすい2階の屋上庭園と2ヵ所のベランダ、階段の滑り台、停電時用の発電機と安全な暖房設備、備蓄品の準備、近所との連絡網整備等と十分な体制が取られています。	運営推進会議等で地域住民の避難訓練協力をお願いして今後の訓練に参加を予定していますが、さらに働きかけながら住民参加の協力体制による避難訓練実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	館内の勉強会でプライバシーの保護について勉強している。失禁した後など他者にわからないように声掛けし配慮している。入居者様の暴言に対して、誇りやプライドを気付けないように配慮した声掛けに注意している。	職員は、研修や実務経験から利用者の人格尊重やプライバシー確保の必要性を理解し、声掛けやケアサービスに十分配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	台所のお手伝いや好みのテレビ番組など本人の意向に合わせてみている。ご本人様の希望にそって、編み物の参考資料を用意し、その中で自己決定が出来るように支援している。本人の希望で選挙投票に行けるように支援もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、散歩・買い物・プランタンの世話や庭園の手入れなど、希望にできる限り添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活で着る服や外出時に着る服などご自分で選べるように配慮するとともに、化粧が出来る環境作りも支援している。また、髪が乱れている時などくしを渡し自分で直してもらおうなど配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備で野菜の皮むきや味付け・味見・盛り付けなど食事作りや後片付けも一緒に行っている。また、肉や魚食べれない人への工夫や配慮も行っている。	本社栄養士による献立ですが、利用者の好みや病状に合わせて調理しています。一部利用者は調理等を手伝い、屋上庭園の野菜も利用しています。誕生日の特別食や季節行事の外食も多く、利用者は変化のある食事を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立メニューに従い、バランスのとれた食事提供をしている。1日の水分摂取量に気を付け、状態に応じてミキサー食も提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指示の元、口腔ケアを行っている。出来る限りご自分でできるように声掛けを重視し、出来ない部分や仕上げを介助する事で個々の能力に合わせて行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活チェック表で排泄の間隔を把握し、タイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。ほとんどの入居様がトイレでの自力排泄を行い、日中はリハビリパンツは使用せず、パットで対応し支援している。	介護度の低い利用者が多く、おむつ使用者は皆無で日中は一部パットを利用していますが、職員は利用者の排泄パターンを把握し、声掛け誘導などでトイレの自立排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に牛乳を提供する事や食後にトイレへ誘導する事、足を上げる運動を取り入れ腹圧をかけ便秘予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は入居者様によって決めている。希望やタイミングに合わせて臨機応変に対応しているが、入浴拒否が強い入居者様があり、その方には入浴日を決めず、毎日の声掛けにより、調子に合わせて入浴が出来るように対応している。	浴室は広く、全身シャワー設備と三方介助可能な浴槽で利用しやすくなっています。利用者は週2回の入浴を目途として午後実施しますが、利用者の希望等で随時、日時を変更するなど柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時は、個々の習慣に合わせて就寝して頂いている。また、夜安眠できるように日中に運動して個々に合わせて対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬情報をスタッフ全員が確認する事を義務付けている。お薬の変更時は、口頭での申し送りでも変化も含めて確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いを通して役割を持ってもらう事や庭園・鉢植えの手入れを一緒に行うなど個々に合わせた役割を持って頂いている。昔馴染みの遊びを（百人一首など）レクリエーションに取り入れ楽しみや気分転換の支援に繋げている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望にそって、散歩や買い物の支援に努めている。ご家族様の急な外出の希望があった場合も、入居者様が出掛けられるように準備などをお手伝いし、支援している。	利用者は、気候状態に合わせて日常的にホーム周辺の散歩や近くのホームセンター見学、お店での買い物などに出かけています。また、毎月の行事として花見や動物園などへ行き、外食も行うなどできるだけ外へ出る機会を増やすよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	化粧品や生活用品などご本人様と一緒に買い物に行き、ご自分で選んでいただいている。また、お金を払う際にご自分で支払いが出来るように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご本人様の手紙などをご本人様に渡している。ご本人様の希望により、家族などへの電話連絡や年賀状を送れるように支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節に合わせた飾りを入居者様と供に作成し、共用空間に季節感を取り入れる事や季節ごとのお花を飾るよう工夫している。玄関にお花のプランタンを置き、一緒にお手入れする事で生活館や季節感を感じられるように取り組んでいる。	多数のグループホームを展開して運営法人が、理想のホームづくりを目指して完成した建物で、ゆったりした居間兼食堂、1ユニット4カ所の広いトイレ、介護しやすい浴室、多目的に使用可能な交流スペース、利用者家族に大好評の屋上庭園があります。利用者は、安全で住みやすい様に配慮されたホームで居心地良く、ゆったりと過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビ前にソファをおき、入居者様同士で過ごせる空間を作っている。入居者様同士が助け合える、席の並びに配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談の上、入居時に馴染みの家具や日用品を使用して頂いている。ご家族様などの思い出の写真を居室に飾る事で居心地良く過ごせるように工夫している。	居室内にはクローゼットがあって身の回り品を整理しやすく、安全なパネルヒーターも設置されています。利用者は馴染みの調度品を自由に持ち込み、家族の写真等を飾りながらのんびりと暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、手作りの表札をつける事やトイレの入り口を示す表示をつけることで本人が混乱しないようにわかりやすくしている。			